



第18回年会「エピジェネティクスの新たな可能性への挑戦（チャレンジ）」開催

第18回日本エピジェネティクス研究会年会在、2025年6月19日～20日の2日間、福井県県民ホールにおいて開催されました。本年会の開催にあたっては、5つの学術変革領域研究(A)（機動性ゲノム、動的な生殖ライフスパン、生命を創発する次世代生命工学、細胞運命コード、クラスター生物学）による共催として、また2つの財団、25の企業にご支援いただきました。

本年会には289名の方に参加していただきました。一般演題17題、ポスターから採択されたショートトーク4題、ポスター発表110題（フラッシュトーク10題）に加えて、坂野仁先生（福井大／東京大）による特別講演、服部奈緒子先生（群馬大）、藤泰子先生（東京科学大）、佐瀬英俊先生（OIST）による新任幹事講演、堀越直樹先生（東京大）、山口幸佑先生（遺伝研）による奨励賞受賞者講演が行われました。また各講演の間にはバイオテクノロジーセミナー、ランチョンセミナーが行われました。そして最後に、浦聖恵先生（千葉大）による次回年会长講演が行われました。

年会長の沖先生の巻頭言にありますように、エピジェネティクス分野の解析技術は日々進歩しています。特に、構造生物学、発生生物学、疾患、創薬、新規モデル生物、エピゲノム操作など、様々な分野と融合して、新しい知見が数多く見出されています。本年会では「新たな可能性に挑戦」というテーマを設定し、福井での恐竜の化石の発掘になぞらえつつ、エピジェネティクス分野の新たな技術を駆使して、現段階では想定できないような、さらなる分野の発展を目的として開催されました。講演会場では活発な質疑応答があり、ポスター会場でも盛んに議論が行われました。

今回の開催地、福井を含む北陸では、本年会とは別に、若手の活性化を目的とした北陸エピジェネティクス研究会が開催されてきました。今年は、本大会前日に同じ会場で、第9回の研究会が開催され、21人の学生が口頭発表をしました。今回は発表者のうち15人が北陸以外からの参加となり、すでに北陸の研究会とは言えない研究会になっただけでなく、発表のレベルも高く、活発な質疑が行われ、優秀発表者はその夜に開催されたウェルカムパーティで表彰されました。今後の本分野の発展を担う若手の成長が実感され、また学生同士の交流や刺激にもつながったのではないかと思います。

講演者の皆様、参加者の皆様、また、年会の準備と運営をしていただいた組織委員会、関係者の皆様、そして福井の魅力を参加者に伝えるべく尽力していただいた大会長の沖先生、大変ありがとうございました。



会場入口の看板



講演会場



ポスター会場の様子



懇親会会場の様子



幹事会と総会が開かれました

- ▶ 6月18日に幹事会が、6月19日に総会が行われました。
- ▶ 次回の年会は浦聖恵幹事（千葉大）を年会長として、**2026年6月25日(木)～26日(金)**の日程で、**千葉市文化センター**で開催される予定です。詳細は後日お知らせいたします。
- ▶ 2027年の年会長には、**中山潤一**幹事（基生研）が選出されました。

奨励賞受賞者の表彰が行われました

本会の賞等選考委員会による厳正な審査の結果、若手研究者の中から**堀越直樹**先生（東京大学）と**山口幸佑**先生（遺伝研）が選ばれ、**伊藤隆司**代表幹事による表彰が行われました。

おめでとうございます！

以下受賞者からいただいたコメントです。

この度はエピジェネティクス研究会奨励賞をいただき、誠に光栄に感じております。本研究会の幹事の先生方、これまでの研究を遂行するにあたりご指導くださいました先生方、共同研究者の先生方、研究室のメンバーに心より御礼申し上げます。



本研究会の年会では、様々な階層や多様な生物種を取り扱った研究を行う先生方と議論する場を与えていただき、大変感謝しているとともに、毎年とても勉強させていただいております。今後も構造生物学的な見地からエピジェネティクス制御機構の解明に取り組むことで、微力ながら本研究会のご発展に貢献できるよう、精進していきたいと思います。

堀越直樹（東京大学 定量生命科学研究所 クロマチン構造機能研究分野）

『多様なクロマチンの構造基盤の解明とエピジェネティック制御分子の開発』

この度はエピジェネティクス研究会奨励賞を受賞させていただき、非常に光栄に感じております。今回表彰していただいた研究内容は、多くの方々の支えのもとで実施できました。特にこれまでご指導いただいた東京大学の岡田由紀先生、パリ・ディドロ大学の Pierre-Antoine DEFOSSEZ 博士、また、共同研究



でお世話になった九州大学の伊藤隆司先生、三浦史仁先生（現東大）には、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

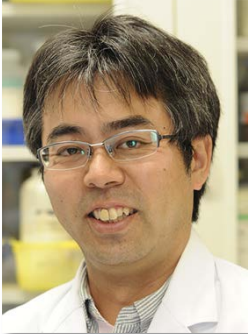
エピジェネティクス研究会は、分野の壁を越えて議論を重ねられる貴重な場であり、私自身、数多くの刺激と学びを得てきました。今後もエピジェネティクス研究の更なる発展に微力ながら貢献できるよう、一層精進してまいります。

山口幸佑（国立遺伝学研究所 分子細胞工学研究室）

『癌細胞における DNA メチル化維持機構とその破綻による細胞老化の解明』



第18回エピジェネティクス研究会年会を終えて



第18回年会長
沖 昌也

皆様、この度は福井までお越し頂きありがとうございました。2024年3月16日に北陸新幹線が開通し、福井の街も活気付きました。新幹線開通前に福井に来られたことのある方は駅前周辺の変化に驚かれたのではないかと思います。福井の地酒や地元の食材をご堪能頂けたでしょうか？

今回の年会は「エピジェネティクスの新たな可能性への挑戦（チャレンジ）」をテーマに開催させて頂きました。天候にも恵まれお陰様で約300名にも及ぶ多くの方にご参加頂き、活発な議論も行われ素晴らしい会になったと思います。会場ではスタッフ一同赤いTシャツでお迎えし驚かれた方も多かったのではないかと思います。ご講演は異分野融合による新たな可能性が生まれることを期待し、エピジェネティクスを専門としている

研究者の方だけではなく、幅広い分野の研究者の方にご登壇頂きました。特別講演では福井県ご出身で東京大学名誉教授の坂野仁先生をお招きし「嗅覚研究」に関してエピジェネティクスの分野との関わりも含めお話し頂きました。ポスター発表会場では、向かいのポスターとの距離を広く取り、多くの方が活発に議論できる空間を提供できるように工夫しました。

また、大会前日に開催された「北陸エピジェネティクス研究会」にも多くの方にご参加頂きました。活発な議論が行われ、学生のための発表にも関わらずレベルの高さに驚かされました。聴衆全員投票により5名の学生優秀発表賞を選んでいただき、今回初めての試みとして前夜祭も兼ねて開催した「ウェルカムパーティー」の中で表彰させて頂きました。大会初日の夜の懇親会では福井の地酒や福井の食材を振る舞わせて頂きました。福井の伝統的な食材である「へしこ」の解体ショーや福井の地酒を使った「利酒イベント」なども開催させて頂き、皆様にも楽しんで頂けたと思います。大会の様子は福井新聞や県民福井などの地方紙に大きく取り上げられ「エピジェネティクス」という言葉の知名度も上がったのではないかと思います。

最後になりますが、ご参加頂いた皆様、ご支援頂きました学術変革領域研究プロジェクト、財団、企業の皆様、そして組織委員の先生方とその研究室のメンバーの皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。来年は千葉で皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

第18回年会長 沖 昌也

情報を求めています！！

研究員・ポスドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年会に関するご意見・ご感想もよろしく願いいたします。お近くの広報委員に気軽にe-mailください。

(委員長) 近藤 豊 (ykondo@med.nagoya-u.ac.jp)
佐渡 敬 (tsado@nara.kindai.ac.jp)
沖 昌也 (ma4sa6ya@u-fukui.ac.jp)
一柳健司 (ichiyana@agr.nagoya-u.ac.jp)
服部奈緒子 (naoko.hattori@gunma-u.ac.jp)
中山潤一 (jnakayam@nibb.ac.jp)

日本エピジェネティクス研究会事務局

千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学内
庶務担当幹事：金田篤志、担当：江島加余子
住所：〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL: 043-226-2039
E-mail: jse-jimukyoku@ml.chiba-u.jp

日本エピジェネティクス研究会
令和7年度第1回幹事会 議事要旨

場所：AOSSA 6階 602 研修室

日時：令和7年6月19日（木）12:10～13:10

出席者：油谷浩幸、有田恭平、一柳健司、伊藤隆司、岩本和也、牛島俊和、浦聖恵、大川恭行、岡田由紀、沖昌也、小布施力史、角谷徹仁、金田篤志、胡桃坂仁志、近藤豊、斉藤典子、佐瀬英俊、佐渡敬、眞貝洋一、鈴木拓、副島英伸、立花誠、籾泰子、中島欽一、中山潤一、西野光一郎、畑田出穂、服部奈緒子、平谷伊智朗、山田泰広、吉田稔（31名）

欠席者：梅澤明弘（委任状）、金井弥栄（委任状）、木下哲（委任状）、木村宏（委任状）、古関明彦（委任状）、白髭克彦、鈴木孝禎（委任状）、中尾光善（委任状）（8名、うち委任状7名）

定足数（2/3）26、出席者数＋委任状提出数＝38

議事

1. 令和6年度事業報告

金田庶務委員長より以下の事が報告された。

- （1）幹事会が令和6年6月13日（木）に、Zoom 幹事会が令和7年1月24日（金）に開催された。
- （2）第18回年会が沖昌也年会長のもと令和7年6月19-20日に福井県県民ホール（福井）にて開催されている。
- （3）第19回年会会長に浦聖恵氏（千葉大学）が選出された。
- （4）立花氏より、第17回年会の決算報告が行われた。

2. 庶務委員会報告

金田庶務委員長より以下の事が報告された。

令和6年12月31日現在の会員数と会費納入状況
一般会員 394名（会費納入率 70%）
学生会員 109名（会費納入率 43%）
賛助会員 4社（会費納入率 25%）

3. 令和7年奨励賞の受賞者の選出について

眞貝賞等選考委員長より、3名から応募がありそのうち堀越直樹さん（東京大学）と山口幸佑さん（遺伝研）を奨励賞に推薦し選出されたことが報告された。

4. 年会参加助成の採択者について

眞貝賞等選考委員長より、伊藤謙治さん（ペンシルベニア大学）が選出されたことが報告された。

5. 幹事再任・辞退について

金田庶務委員長より幹事の任期満了に伴う再任・辞退について、2025 年 3 月 21 日のメール審議にて承認されたことが報告された。

再任 10 名（伊藤隆司、沖昌也、角谷徹仁、白髭克彦、眞貝洋一、鈴木拓、中島欽一、西野光一郎、畑田出穂、一柳健司）

辞退 4 名（梅澤明弘、金井弥栄、中尾光善、吉田稔）

また、各幹事（35 名）の今後の任期についても確認があった。

6. 令和 6 年度収支決算について

金田庶務委員長より資料に基づいて説明された。

収入は予算額 986,050 円のところ、コロナ禍 4 年間の滞納会費の支払いをお願いし決算額は 1,629,627 円と増額となった。

支出は年会補助金について予算では 1,000,000 円を計上していたが、令和 6 年度は会計年度の区切りの関係で 2 回分の 2,000,000 円の支出となり、決算額 2,597,179 円と増額となった。

収支の差額は、1,058,950 円の赤字見込とほぼ同額の 967,552 円の赤字となった。

決算の監査が、中島氏と鈴木氏によってなされ、適正である旨報告された。

審議の上、承認された。

7. 令和 6 年度収支予算案について

金田庶務委員長より資料に基づいて以下の説明がなされ、承認された。

- 収入は会費の支払いを例年同様想定し、2025 年度は 948,760 円である。
- 支出は、年会補助金 1,000,000 円、年会奨励賞 300,000 円（一人 100,000 円）、年会参加助成 300,000 円（一人 30,000 円）、など 2,045,000 円となる。
- 収支差額は 1,096,240 円の赤字が想定される。

毎年 100 万円以上の赤字で通帳残高が目減りしていることに対策が急務であり、年会補助金の額と合わせて議事 11、12 の審議へと移った。その結果、2026 年度より奨励賞は 1 件 50,000 円とし、年会参加助成は中止、年会補助金は 500,000 円に減額となった（議事 11）。ウェブ幹事会議で承認されていた新たな企業賛助会

員制度は 2026 年度から正式に開始することとなり、一般会員の会費を 5,000 円に上げることとなった（議事 12）。以上を 2026 年度の予算額に反映して修正することとした。

8. 代表、副代表の選出及び各種委員会の任期更新について

伊藤代表幹事より各委員の任期等の説明があり、審議の結果以下の通りとなった。

- ・代表幹事

立候補なし。代表幹事から副代表幹事の木村宏幹事を推薦。本日は不在だが内諾済み。出席幹事の承認により選出。

- ・副代表幹事

木村宏次期代表幹事から斉藤典子幹事の推薦あり、出席幹事の承認により選出。

- ・庶務委員会

金田委員長、岩本委員の留任。前庶務委員長で委員に留任していた畑田委員の退任と、新たに鈴木拓幹事の委員への就任について、承認。

- ・広報委員会

近藤委員長、以下全委員について、副代表幹事となる斉藤幹事を除いたメンバーの留任を、承認。

- ・会計幹事

3 年任期で交代。新たに副島英伸幹事、鈴木孝禎幹事が就任。出席幹事の承認により選出。

- ・賞等選考委員会

眞貝委員長、大川委員、金井委員が退任。木下委員、胡桃坂委員、平谷委員が留任。新たに岡田幹事、西野幹事、小布施幹事、そして MD が欠けていることから山田幹事、の 4 名が委員に就任。胡桃坂委員が引継ぎ期間として 1 年間留任してから退任し、委員の所属に偏りのないようにする方針で承認。

今後の次期代表幹事や年会長の選出について意見交換した。立候補制、自薦・他薦を含む推薦制、事前に候補者を揃え所信表明の上で投票を行う、などオープンな選出法の導入について意見が出て、あらためてウェブ幹事会を開催して議論することになった。時期は 7 月の第 1 回ウェビナーのあと、8 月ごろとした。

9. 第20回（令和9年）年会長の選出について

伊藤代表幹事より、近藤幹事が年会長のときにコロナ禍でオンライン開催となったことをうけ、東海地方での開催が提案され、基礎生物学研究所の中山潤一氏が推薦された。協議の結果、中山潤一氏が第20回年会会長として選出された。

10. 新幹事、名誉会員の選出について

- 新幹事被推薦者8名について、1人4票として無記名投票が行われた。
- 開票の結果、鶴木元香氏（25票）、梅原崇史氏（21票）の2名が選出され、幹事就任を依頼することとなった。2名と他の被推薦者とは得票数で大きく差が開き、本年度は2名の選出となった。
- 名誉会員について中尾光善幹事と吉田稔幹事が推薦され承認された。

11. 奨励賞および年会参加助成の応募について

金田庶務委員長から、奨励賞の応募資格が曖昧な表現だったため以下のように修正する旨提案があり承認された：

応募資格（以下の項目をすべて満たすこと）

- ○○年4月1日時点で40歳未満であること
- ○○年4月1日時点で、継続して3年以上の会員歴を有する会員であること
（留学等による休会での中断は問題ありません）

また、奨励賞の副賞、年会参加助成、年会補助に関して意見交換が行われた。年会参加費や企業の賛助金などで研究会予算も豊富だったところに、会員に還元する目的に行われたが、毎年およそ100万円ずつの赤字で本年度中に300万円台にまで通帳残高が減ることから、還元について見直しをはかることになった。

- 奨励賞は金額ではなく名誉であり、1件10万円を1件5万円、乱発せず応募数に応じて1/3を目途に選考し最大3件までとする。
- 会員に還元する目的の年会参加助成は役割を終えたと判断し中止とする。
- 年会補助は、できるだけ返金することを目標とし、100万円から50万円に減額する。

12. 企業賛助会員について

金田庶務委員長から、企業賛助会員について説明あり、2026年度から新制度へ移行することが承認された。

また2025年度までは3,000円で維持してきた一般会員の会費に関して、昨今の財政状

況と物価を考慮して意見交換した。3,000 円の維持は困難、5,000 円への増額が相当、それ以上への増額も検討、など議論し、2026 年度から以下の方針となった。

- ・ 一般会員は会費 5,000 円へ増額
- ・ 学生会員は会費 1,000 円のまま維持
- ・ 企業賛助会員は新制度へ移行

13. エピジェネティクス研究会ウェビナーについて

近藤広報委員長からウェビナー開催の開始について説明があった。

- ・ 年 4 回の開催。
- ・ 毎回 20 日開催とし、曜日が固定されないようにする。
- ・ 企業がアピールする時間を作り、アンケートにより企業が情報を得る。
- ・ 参加対象は会員とし、幹事は参加必須で非会員の研究室メンバーも視聴可とするので大勢の参加を期待する。

ウェビナー開催に関して承認が得られ、年会で会員の皆様にもアナウンスすることとなった。

14. その他

斉藤幹事から、2026 年 5 月 18-22 日に蘇州で開催される Cold Spring Harbor Asia について、参加を呼びかけてほしいと依頼があった。

伊藤代表幹事から梅澤幹事が担当している International Society for Molecular and Clinical Epigenetics (isMOCLEP) との連携について報告があった。

次回幹事会は、代表幹事や年会長の今後の選出方法についてウェブ会議を開催する。

(以上)